

〈東文研セミナー〉

蜂起の空間的実践

「アラブの春」の抗議行動にみる広場と国家の関係性



タハリール広場で礼拝を行う人々

中東における「アラブの春」での大衆の抗議行動は、都市部の大規模な蜂起に「公／私」をめぐる複雑な過程や諸相があることを明るみに出した。

これについての経験的・体系的な調査の必要性を指摘しつつ、本報告では、伝統的な国家主導型の権力・支配システムからの抵抗や蜂起のための空間として、「公」空間がいかに素早く再形成・再生産されているのかを描き出す。

エジプト革命の最中、タハリール広場やその周辺の建物では、どのようなやり取りや社会的振舞い、空間利用のパターンがあったのか。それらを物理的な状況と空間的秩序の中に位置づけながら、本報告では、広場で見られた社会的・空間的実践が革命の以前から、個々人の記憶や認識の中に埋め込まれていたものであったこと、また、その他の場所や状況でも行動の基点となっていたことを論じる。

日 時： 2014年 3月 6日(木) 15:00-17:00

会 場： 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 3F 大会議室

講 師： ギハーン・セリーム氏

建築学 講師

クィーンズ大学ベルファスト、英国

主 催： 東文研・班研究「中東の社会変容と思想運動」

共 催： 科研費基盤研究(A)アラブ革命と中東政治の構造変容に関する基礎的研究

TIAS「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班

※ 申し込みは不要です。直接お越しください。